

いもう 葦毛通信



クロミノニシゴリ

2024年6月18日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 156

1、2024年ニホンミツバチ巣箱設置経過報告ー1

葦毛湿原では授粉をするポリネーターの確保のため、ニホンミツバチの巣箱を2023年3月に大型のものを3か所、2024年3月に小型のものを11か所設置しました。2023年には設置した3か所のうち、1か所でニホンミツバチが入りましたが、入った時期が通常に分蜂の時期ではなくイレギュラーで、さらにオオスズメバチに襲われたようで、巣を放棄したことを報告しました（葦毛通信 No. 151）。

2024年は通常に分蜂の季節である4月にW・Y地点の2か所に入りました。入ったのは、いずれも2023年3月に設置した大型の巣箱です。



W地点の巣箱（2024年6月3日）



出入りしているニホンミツバチ

1) W地点の巣箱

W地点の巣箱は、2024年4月22日にニホンミツバチが入っていることを確認しました。今回入ったのは昨年入らなかった巣箱で、葦毛湿原では最も北側の旧水田の脇に設置したものです。条件としては、あまり良くなく、斜面の下の方の森の中でかなり暗くなっているところです。

巣箱に帰ってくるニホンミツバチは、ほとんどの個体が両脚に花粉団子を付けています。



帰ってきたミツバチ（2024年4月30日）

2) Y地点の巣箱

Y地点の巣箱は、2024年4月30日にニホンミツバチが入っていることを確認しました。これは昨年入った巣箱で、葦毛湿原中心部の南側に広く開けた明るい所で、最も条件が良いと思われたところでした。昨年はオオスズメバチに襲われたようで、途中で巣を放棄してしまった巣です。一度放棄した巣なので入らないのではないかと考えていましたが、入っていました。ニホンミツバチが一度入ったところは匂いがつくので、再度入る可能性が高いようです。



Y地点の巣箱（2024年4月30日）

出入りしているニホンミツバチ

Y地点の巣箱に帰ってくるニホンミツバチも、ほとんどの個体が両脚に花粉団子を付けています。

相当な数のミツバチが出入りしており、葦毛湿原内の植物の受粉には良い影響があると思われます。

3)ニホンミツバチ帰巣個体数調査

両地点のニホンミツバチがどの程度活動しているのかを確認するために、巣に帰ってくるハチの数を1分間単位で何匹帰ってくるのかを計測しました。計測は、5月12・23日はY地点のみで2回、6月3日以後はW・Y地点でそれぞれ4回ずつ行いました。これ以後、計測は1地点で4回行うようにしています。今後計測を続けますが、これまでの結果は下表のとおりです。



帰ってきたミツバチ（左）・出ていくミツバチ（右）
（2024年5月23日）

2024年ニホンミツバチ帰巣個体数調査													
日付	天気	時刻	W地点4/22確認				平均	時刻	Y地点4/30確認				平均
5月12日								11:30	15	12			13.5
5月23日								10:38	36	30			33.0
6月3日	晴	11:30	55	37	30	38	40.0	11:45	60	48	63	45	54.0
6月10日	曇り	11:25	22	20	12	18	18.0	11:35	61	64	67	61	63.3

6月10日のY地点の巣では、1秒に1頭以上のニホンミツバチが巣に帰っており、葦毛湿原の植物の受粉には十分役立っていると思われます。

2、ナガバノイシモチソウが**開花**しました！

6月3日に第3地点でナガバノイシモチソウの1輪の初開花を確認しました。ナガバノイシモチソウの初開花確認日は、木を伐って大規模に作業を行った2017年までは6月下旬から7月上旬だったものが、2018年以降は5月末頃から6月上旬に移行してきています。植生回復作業開始から現在までで、開花はおよそ1か月程度早くなっています。

ナガバノイシモチソウは成長して、各地点で白くなって集中している群落がいくつも見られるようになってきました。6月14日に第1～8の全地点で開花を確認しました。開花数は6月10日に初めて100を超えて145輪が開花し、16日は565輪が開花しています。これから順次開花数が増えて、7月上旬には1000輪を超えると予想しています。

また、8月2～4日（金～日）9：30～11：30にはナガバノイシモチソウの一般公開を行います。今年は隔年で開花数が増減する多い年にあたり、多数の開花が期待できます。

現在、ナガバノイシモチソウ自生地では、トウカイコモウセンゴケ、マアザミ、ネジバナが開花しています。



開花状況（2024年6月10日）



ナガバノ近接（2024年6月13日）



現在開花：トウカイコモウセンゴケ、マアザミ、ネジバナ（2024年6月13日）

3、2024年度モニタリング報告－2

1) A地点

A地点はミミカキグサ類が多く自生しており、日本にある4種類のミミカキグサすべてが見られます。下写真左は、ヒメミミカキグサの発芽促進のため、植物の根を除去した実験を行ったところです。作業後2か月が過ぎて、モウセンゴケ、コタヌキモ、ミミカキグサ類の食虫植物やヌマガヤ等の湿生植物が発芽しています。

コタヌキモは東三河最後の自生地であった細谷湿地が圃場整備事業によって消滅の危機にあり、1971年8月5日に地元植物研究者と相談の上、葦毛湿原に移植されたものです。



A地点作業直後（北から：2024年4月4日）

A地点作業後約2か月（2024年6月11日）



A地点作業直後（西から：2024年4月4日）

A地点作業後約2か月（2024年6月11日）



発芽状況：ミミカキグサ（葉） モウセンゴケ（白花）

コタヌキモ